

コーナーリングや急な危険回避の場面でも安定感を誇る操作性



スバルXV・2.0-S EyeSight

価格: 2,678,400円(税込)

ボディサイズ:全長4465mm×全幅1800mm×全高1550mm 車両重量1440kg
パワーユニット:水平対向4気筒/1995cc AWD JC08モード燃費:16.0km/L 乗車定員:5人
[問い合わせ]SUBARUお客様センター ☎0120-052215



ステレオカメラによって先行車はもちろん、歩行者、自転車まで検知する運転支援システム、アイサイト。スバル独自の先進安全技術が標準装備されている



SUBARUが飛行機研究所だった時代から受け継ぐ視界性能へのこだわり。全方位で死角を低減させる工夫がなされ、安全性能の向上が図られている

この最新型XVの発表と同時に、社名を正式にSUBARUへと改称。これまで同社が掲げてきた「安心と楽しさ」をさらなる上の次元へとステップアップさせていく。XVからは、そんな意気込みが伝わってくる。

またXVでは、これまでフォレスターに採用されてきたX-MODEという、オフロードでの走破性を高めたモードを設定。タイヤがグリップを失ってしまいうようなシーンでも、路面をしっかり捉え、クルマを前進させてくれる。

XVのアドバンテージはまだまだある。最新モデルは、2016(平成28)年度の自動車アセスメントにおいて衝突安全性評価大賞をインプレッサとともに受賞し、日本車では初採用となる歩行者保護エアバッグを備えたことから、特別賞まで受賞した。

さらに注目したいのは、スバルが誇る先進安全装備「アイサイト」を全グレードで標準装備していること。機能性やクオリティをピックアップするだけでなく、ズナブルである。

走りでもトピックが多い。乗用車AWDのハイオニアとしてのノウハウを生かした雪道の走行には定評がある。それに加えて重心を低く抑えられる水平対向エンジンを採用し、それを縦方向に配置することでシムメトリカルなレイアウトを実現。こうすることでスポーティーさが向上し、操縦性とハンドリングの軽快さ、さらにはAWDがもたらす安定感が向上するなど、スバル独特ともいえる走りの味わいが生まれる。

走ることもあり、実際に触れて、乗ってみると、価格帯を超えた実力に驚きを覚えるはずだ。

さらに注目したいのは、スバルが誇る先進安全装備「アイサイト」を全グレードで標準装備していること。機能性やクオリティをピックアップするだけでなく、ズナブルである。



SUBARU XV

カジュアルな顔とは裏腹のタフな走り

新社名SUBARUが放つ
新型モデルの第1弾

スバルが乗用車AWD(4WD)のハイオニアであることをご存知だろうか。1970年代初頭の冬、雪深い東北地方で電線のチェック・メンテナンスを行うため、電力会社が雪道でも機動性と快適さを失わないクルマを必要にした。それを現在のスバル、当時の富士重工業が提供したのである。当初は商用だったが、やがて乗用車にも展開。現在まで引き継がれることになった4WDのラインナップに、オールマイティーな走行性を与えられたのが、スバルのSUV群だ。

SUVのラインナップには、上級モデルのレガシーをベースにしたアウトバック、悪路走破性を際立たせたフォレスター、今紹介するXVの3車種がある。

XVは、カジュアルなデザインテイストを強調したモデルだが、だからといって、オフロードでの走行性能が劣っているわけではない。見た目のスマートさからは想像できないタフな一面をもち合わせたクルマだ。

ベースになるのは、スバルの主力モデルであるインプレッサスポーツ(ハッチバック)。最低地上高を200ミリとし、エクステリアにSUVらしいプロテクターテイストを加えたもので、最新型は今年4月に発表。5月に発売が開始されたばかりで、XVとしては3代目に当たる。

インテリアから走りに至るまで上質を誇ったインプレッサがベースになってい

スマートSUVで
3倍広がる
ライフスタイル